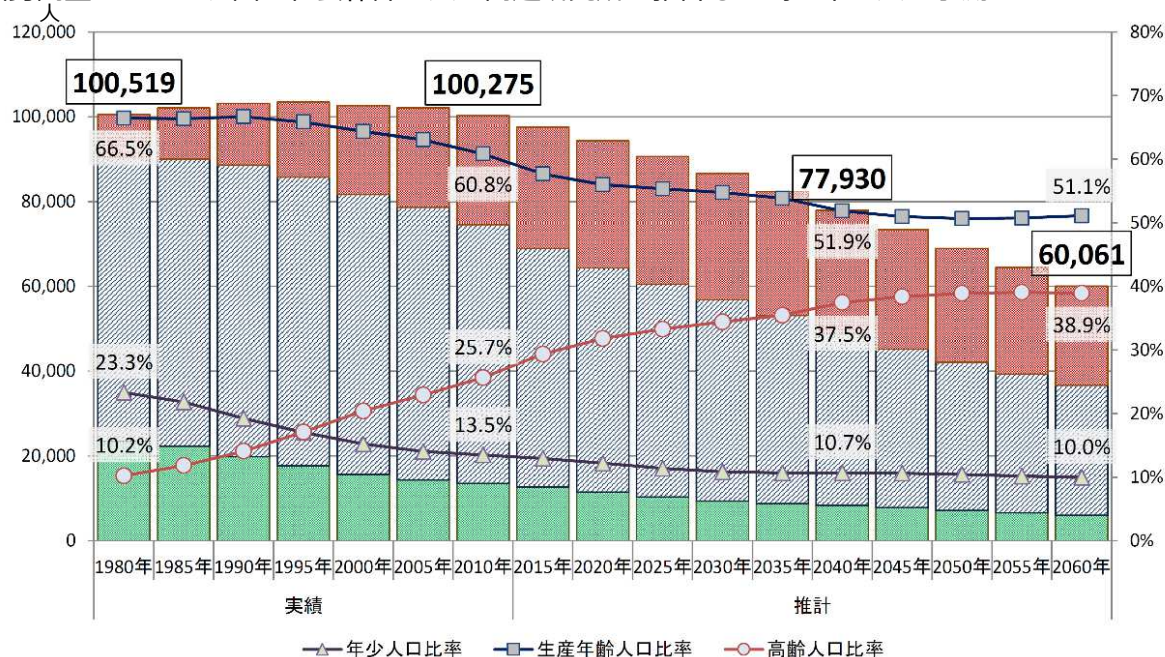


第 2 次島田市総合計画策定に向けた 数値に見る島田市の現状及び課題

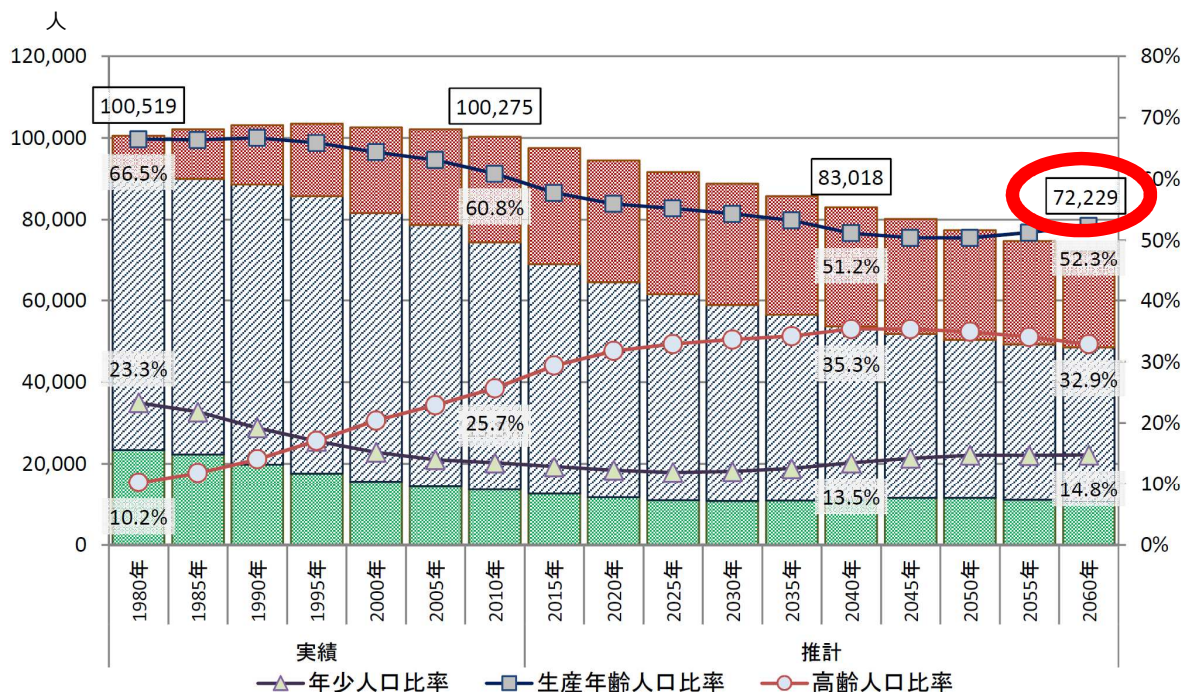
1 島田市の人口に関する推移と将来の見通し

(1) 人口予測

- 国勢調査に基づき、国立社会保障・人口問題研究所が推計した島田市の人口予測



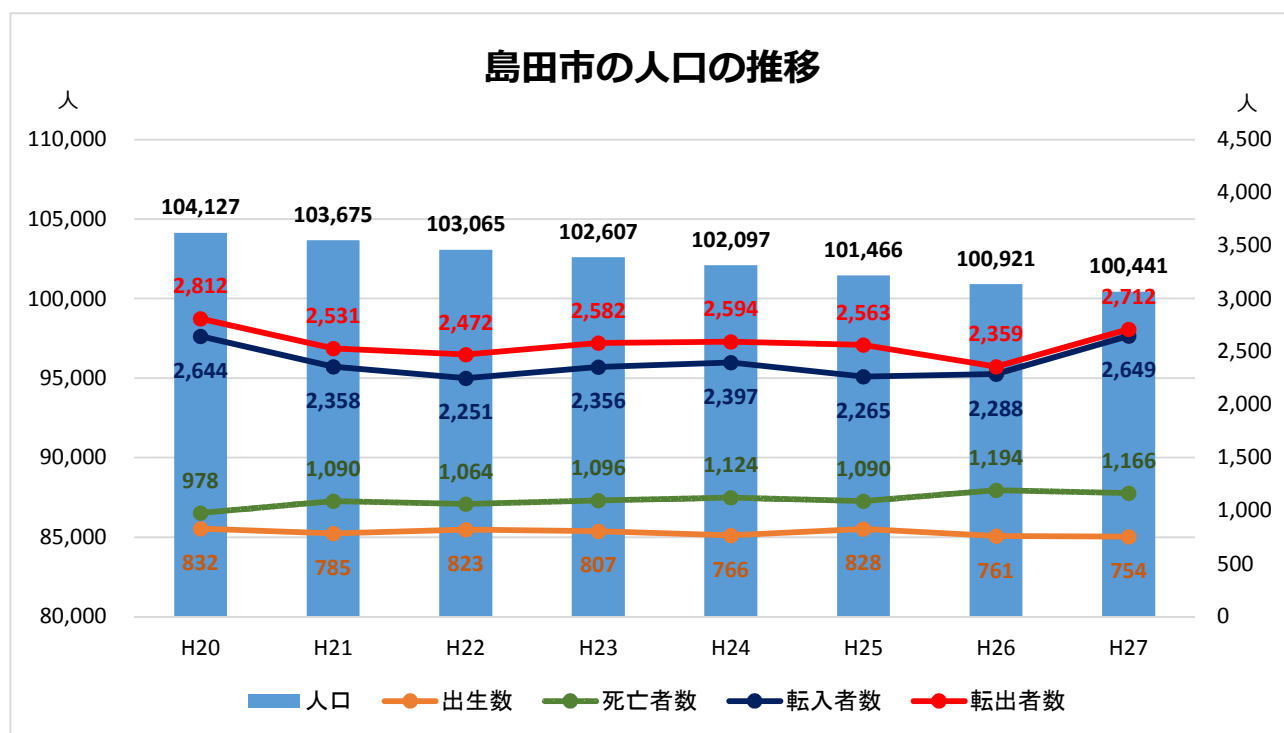
- 島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンによる人口目標



【2060年の目標人口…8万人】

若い世代の就労・出産・子育ての希望を実現し、合計特殊出生率を2040年（平成52年）に2.07、社会移動を2020年ごろに均衡させ、更なる合計特殊出生率や転入超過、長寿による人口増加をめざして、**2060年の目標人口を「8万人」とする。**

(2) 人口の推移（自然増減・社会増減）

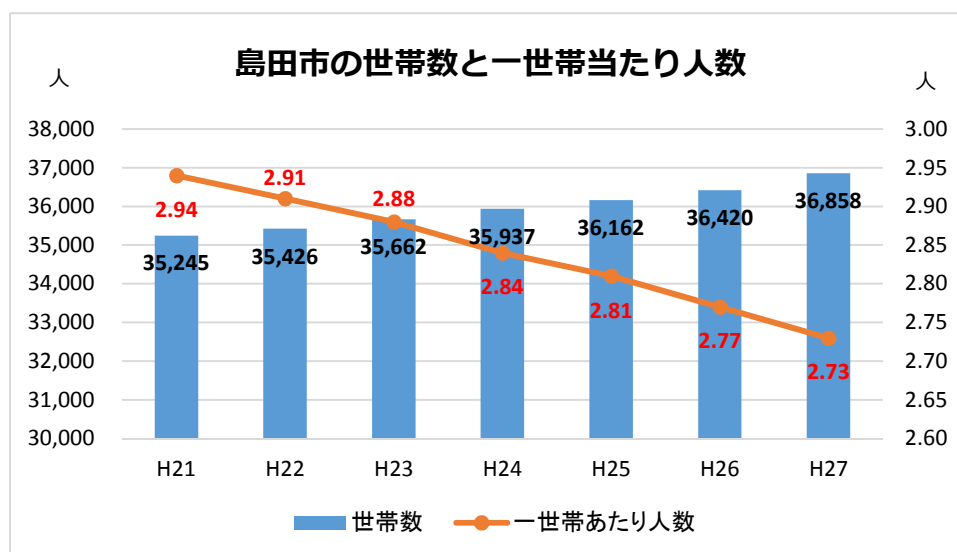


※左側の目盛り…人口（棒グラフ） 右側の目盛り…出生数等（折れ線グラフ）

※出典 住民基本台帳（各年とも12月31日現在の数値）

	人口	自然増減			社会増減			純増減
		出生	死亡	自然増減計	転入	転出	社会増減計	
H20	104,127	832	978	△146	2,644	2,812	△168	△314
H21	103,675	785	1,090	△305	2,358	2,531	△173	△478
H22	103,065	823	1,064	△241	2,251	2,472	△221	△462
H23	102,607	807	1,096	△289	2,356	2,582	△226	△515
H24	102,097	766	1,124	△358	2,397	2,594	△197	△555
H25	101,466	828	1,090	△262	2,265	2,563	△298	△560
H26	100,921	761	1,194	△433	2,288	2,359	△ 71	△504
H27	100,441	754	1,166	△412	2,649	2,712	△ 63	△475

(3) 人口数値から見る市民生活への影響

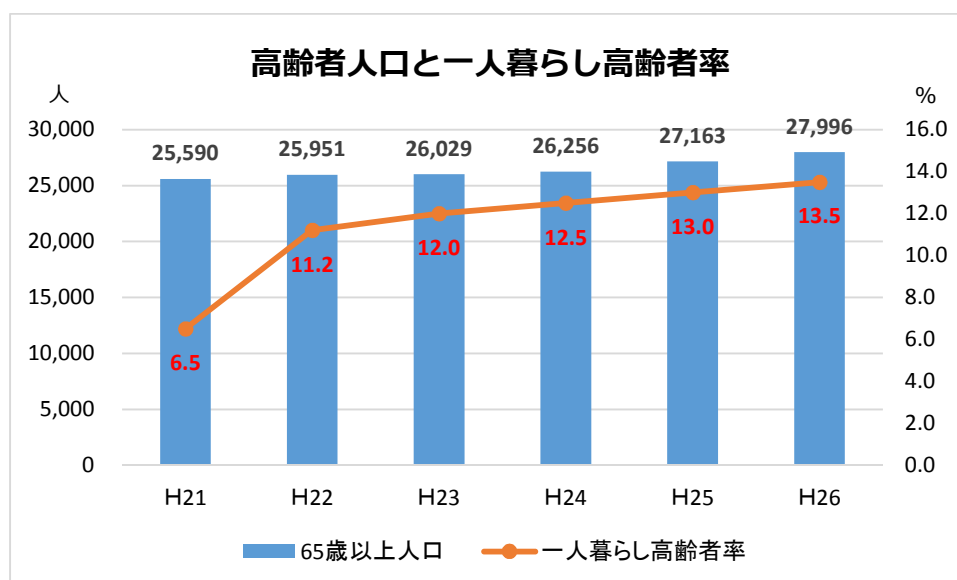


※左側の目盛り…世帯数(棒グラフ) 右側の目盛り…1世帯当たり人数(折れ線グラフ)

※出典 住民基本台帳(各年度とも12月31日現在の数値)

市内では、人口は減少しているのにも関わらず世帯数は年々増えています。それに反比例して、世帯を構成する一世帯当たりの人数は年々減少しています。

要因として、晩婚化による若者のみの世帯や高齢者の一人のみの世帯が増えていることなどが考えられます。

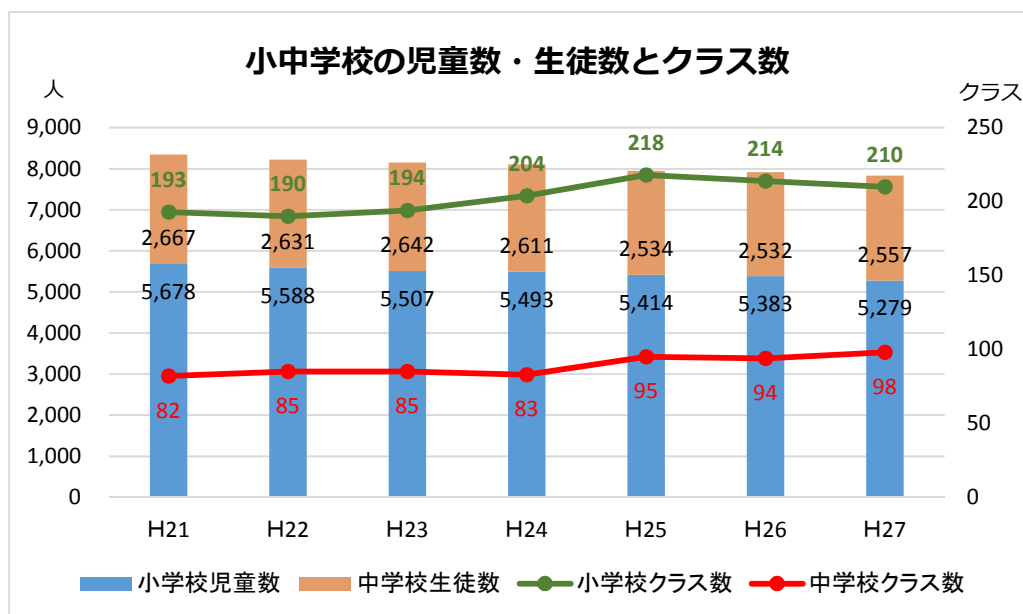


※左側の目盛り…65歳以上人口(棒グラフ) 右側の目盛り…一人暮らし高齢者率(折れ線グラフ)

※出典 市町の指標(静岡県発行)

高齢化が進展により、65歳以上の高齢者が増えている中で、さらに課題となることは、一人暮らしの高齢者が増えていることです。今、市内では、約7～8人に1人の高齢者が単身で生活していることになります。

こうしたことから、高齢者にとって日々の安全・安心な生活を実感いただくためにも、さらに地域の見守りの力を高めていく必要があります。



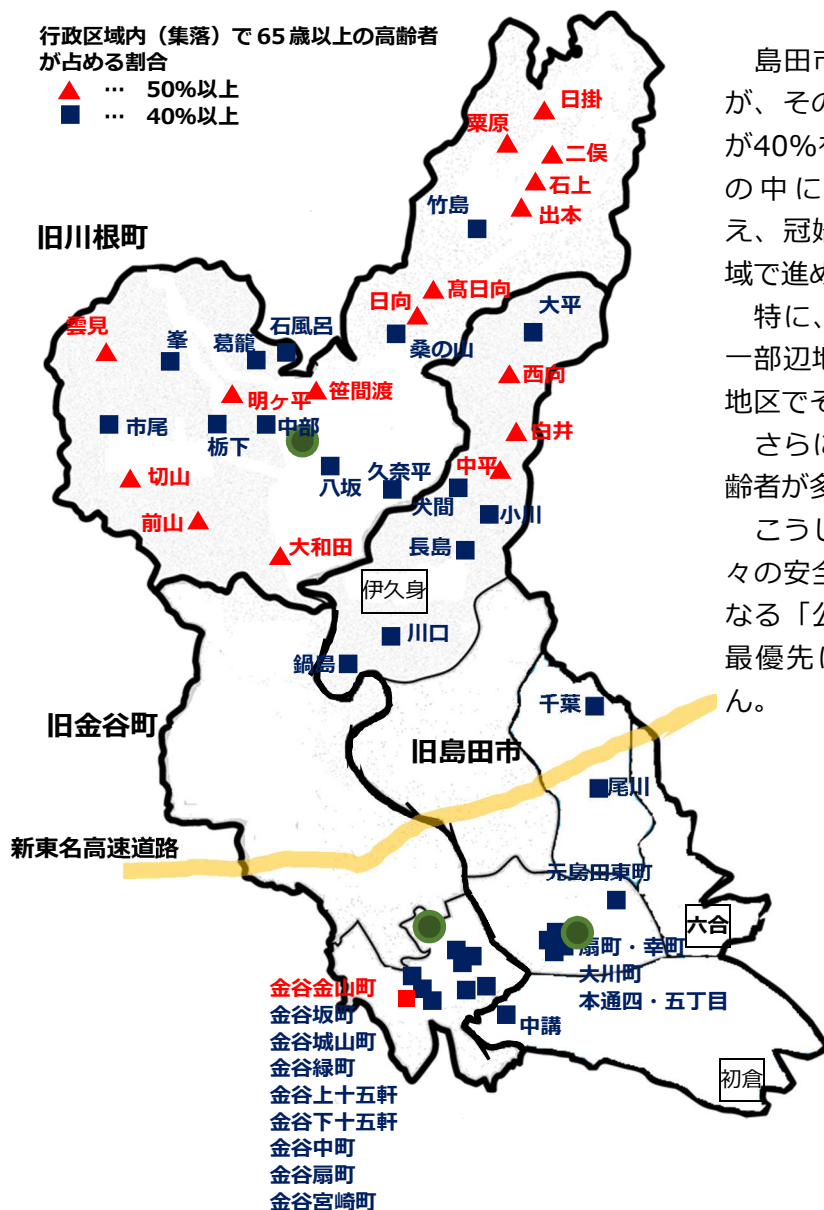
※左側の目盛り…児童・生徒数(棒グラフ) 右側の目盛り…小・中学校クラス数(折れ線グラフ)

※出典 児童・生徒数…市町の指標(静岡県発行) 小中学校クラス数…島田の教育

児童・生徒数については、平成21年度と平成27年度を比較し、特に、小学校の児童は約400名程度減少しました。その反面、小学校・中学校ともクラス数は増えていますが、これは、平成21年度から進められている「静岡型35人学級編成」による影響と考えられます。

一方、市内3つの小学校では、児童数の大幅な減により、複式学級(2つ以上の学年を一つに編成した学級)による学校運営がされています。未来の子どもたちの健全な教育のためにも、望ましい学校教育のあり方について検討を進めています。

地区の高齢化



島田市には全部で185の行政区域がありますが、そのうち、65歳以上の高齢者が占める割合が40%を超える行政区域が50もあり、さらにその中には、50%を超えるものが18を数え、冠婚葬祭や川ざらいなどの地域の行事を地域で進めていくことが難しくなっています。

特に、過疎地域に指定されている川根地区、一部辺地地区の指定を受ける集落がある伊久身地区でその傾向が高いものとなっています。

さらに、島田、金谷の中心部においても、高齢者が多い行政区域が増えてきました。

こうした状況が進む中で、市民の皆様が日々の安全・安心な生活を送るにあたって必要となる「公共交通」や「日常生活用品」の確保を最優先に行政は考えていかなければなりません。

●コミュニティバスの利用状況

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
伊久身線	134,517	126,462	119,898	112,532	112,853	112,020
相賀線	82,256	79,424	75,395	74,853	75,475	69,753
湯日線	44,201	44,890	43,796	42,167	41,885	40,536
大津線	62,808	65,489	59,089	57,215	60,501	58,647
菊川神谷城線	7,202	7,765	6,877	6,804	5,944	5,964
夢づくり会館線	17,500	16,458	16,094	16,803	17,439	18,786
大代線	976	1,269	1,378	1,247	1,286	1,214
六合南線	3,514	3,540	3,327	2,797	3,129	3,396
笹間渡笹間線	11,044	10,148	7,519	8,851	8,325	8,876
田代の郷温泉線	40,997	44,243	46,732	45,469	46,224	46,816
島田駅東線	1,771	2,398	2,479	3,280	2,635	2,500
ゆいたク			108	144	126	110
合 計	406,786	402,086	382,692	372,162	375,822	368,618

※出典 成果に関する報告書

2 数値に見る政策展開の課題（第2次総合計画で踏まえるべきもの）

（1）福祉、介護、医療などの市民の安全・安心を確保する上での課題

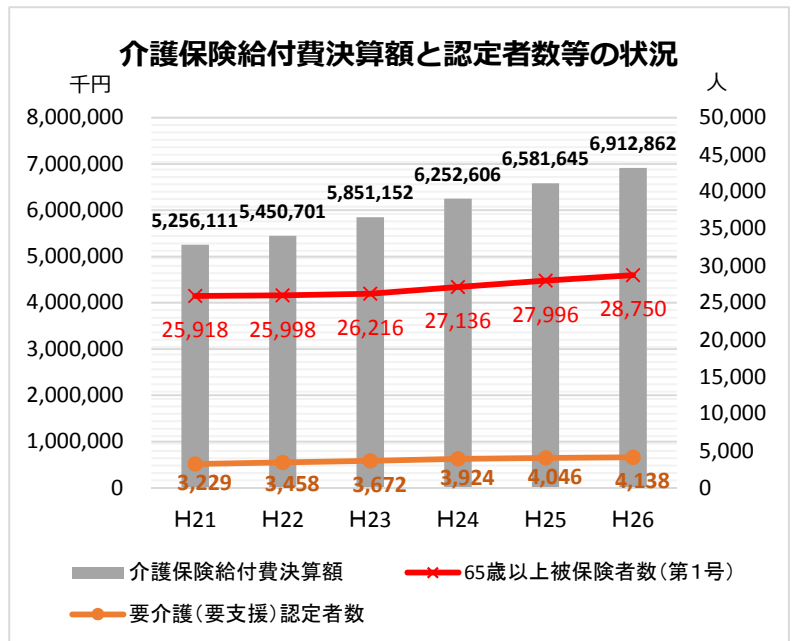
① 高齢者の増（介護費用の増大）

団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題を見据え、平成27年度に医療・介護制度が一体的に見直されました。

例えば、「要支援」に認定された人を対象とする介護予防サービスの一部が見直され、全国一律のサービスから市独自のサービスとして提供されるようになりました。

人口推計からも、今後、高齢者や高齢者のみの世帯が増え続け、支出に占める医療・介護の割合が一層大きくなると考えられることから、予防に力点を置いた施策を展開していく必要があります。

また、地域包括ケアシステムを早期に構築するため、医療と介護の連携を強力に推進するとともに、地域の中で見守りあう力をさらに高めていくことが求められています。

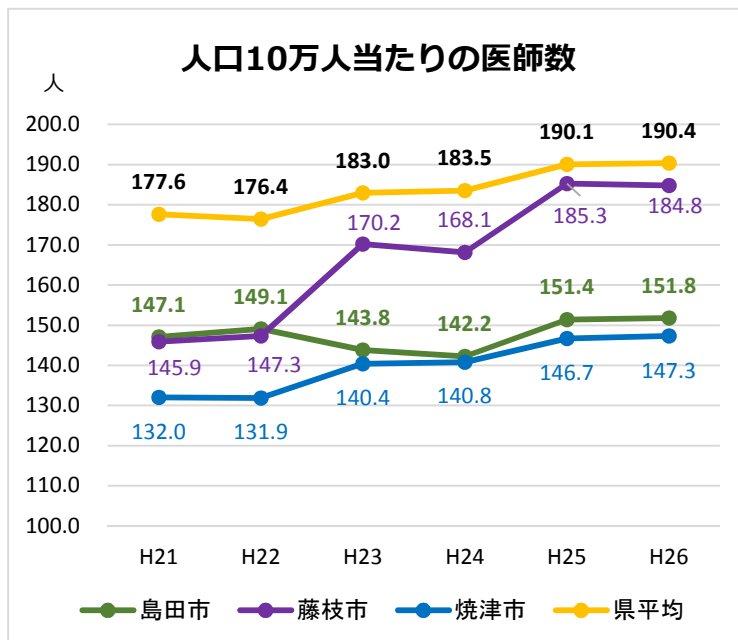


※左側の目盛り…介護保険給付費決算額(棒グラフ)

右側の目盛り…被保険者数、要介護認定者数(折れ線グラフ)

※出典 成果に関する報告書

② 医療政策転換への対応



※左側の目盛り…人口10万人当たりの医師数(折れ線グラフ)

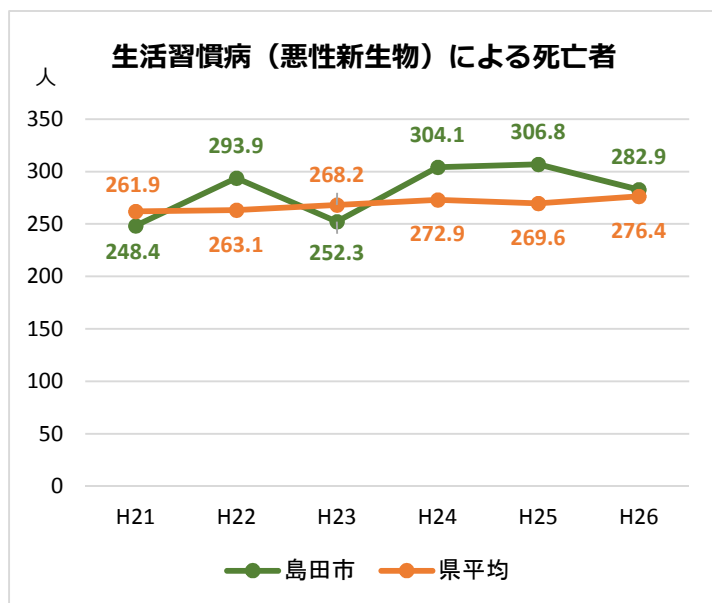
※出典 市町の指標(県発行)

医療費の増大など社会保障費が膨らんでいる中で、国は、医療機関の機能の分化・連携、在宅医療の充実等を内容とする医療サービスの提供に係る制度改革を進めています。

当市でも、平成26年度から在宅医療を推進するリビングウイルのPR等に取り組み、平成28年度には、「包括ケア推進課」を設置し、24時間365日利用可能な訪問看護ステーションを整備するなど、他市に先駆けた事業を展開しています。

在宅医療を推進する上で重要なのは、在宅においても質の高い医療・介護サービスが受けられるようにするという事です。そのためには、在宅医療を担う医師など医療介護従事者の人材確保及び在宅医療・介護を一体的に提供するための関係機関の連携体制の構築が求められています。

③ 生活習慣病による死亡率上昇



生活習慣病は、中年～高齢者の間で急増しており、WHOは2030年までに、生活習慣病による死亡数が5,500万人に増加し、そのうち心疾患による年間死亡数は2,500万人に、また、がんによる死亡数は1,300万人に増加すると予測しています。

特に、がん（悪性新生物）に関しては、島田市では、県平均の死亡率を上回っている状況となっています。

がん検診の受診率の状況を踏まえ、今後、さらに予防と早期発見に力を入れていく必要があります。

【参考：がん検診受診者数の推移（出典：成果に関する報告書）】

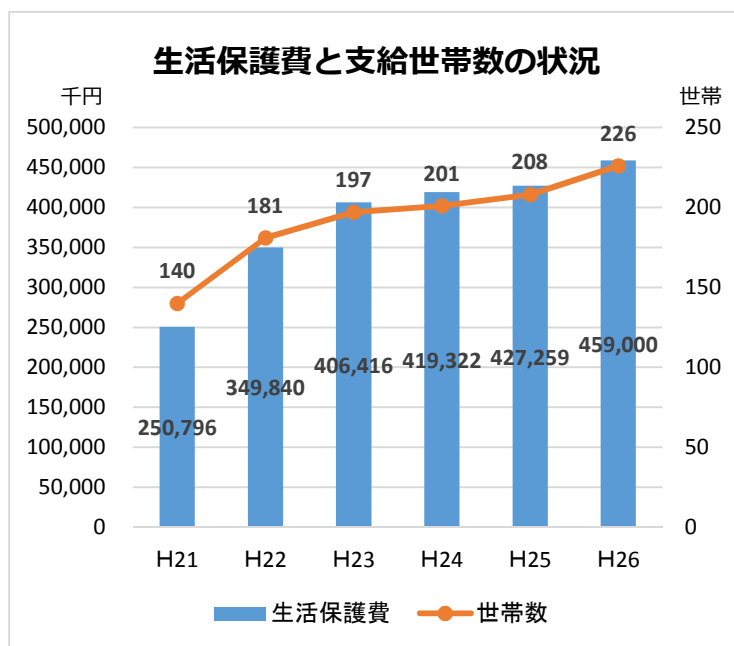
単位：人

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
乳がん検診	3,604	3,677	4,034	3,508	3,602	3,386
子宮頸がん検診	4,878	5,097	5,414	2,909	5,141	2,544
胃がん検診	4,110	4,130	4,951	4,586	4,582	4,248
肺がん検診	12,748	12,449	10,340	10,134	9,595	9,223
大腸がん検診	6,664	6,811	8,699	8,864	8,860	9,234
前立腺がん検診	2,405	2,560	2,823	2,874	2,928	3,176

④ 生活保護世帯数の増

厳しい社会情勢の影響を受けて、生活保護を受給する世帯が増えており、島田市では、平成21年度と平成26年度を比較すると、生活保護費支出ベースで約1.8倍、世帯数は1.6倍にも増加しています。

さらに、非正規雇用といった労働形態、離婚による母子家庭の増といった社会構造・価値観の変化により、苦しい生活を強いられる方も増えており、生活保護受給に至る前からの支援体制の強化が求められています。



⑤ 障がいがある人への理解

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
身体障害者数（人）	3,457	3,290	3,291	3,270	3,228	3,236
知的障害者数（人）	644	639	668	718	739	768
精神障害者数（人）	354	391	404	438	466	484
障害者雇用率（％） （ハローワーク島田管内）	1.63	1.49	1.32	1.47	1.66	2.07
障害者雇用率（％） （県内ハローワーク合算値）	1.65	1.68	1.61	1.65	1.72	1.80

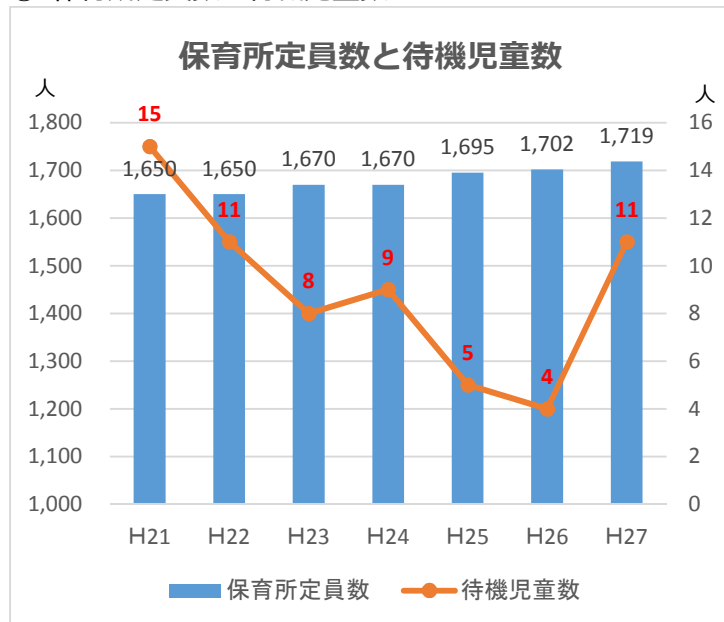
※出典 成果に関する報告書（障害者数）
ハローワークからの報告（雇用率）

障がいがある人がごく普通に地域で暮らし、地域の一員として共に生活できる社会を実現するため、市では、障がいがある人への就労支援施策を展開するほか、就労施設等の物品調達を支援するため、市役所内で「販売所」を定期的に開設しています。

民間企業における障害者雇用率を見てみると、ハローワーク島田管内では、障害者の雇用率が平成21年度から県平均を下回る状況でしたが、平成26年度において2％に届きました。

ただし、民間企業は平成25年度から法定雇用率2.0％に義務付けられていることから、引き続き、障害のある人が働きやすい環境が確保できるよう働きかけていく必要があります。

⑥ 保育所定員数と待機児童数



※左側の目盛り…保育所定員数（棒グラフ）

右側の目盛り…待機児童数（折れ線グラフ）

※出典 市町の指標（県発表）、成果に関する報告書

今年に入り、ブログをきっかけとする都市部での待機児童問題が話題となり、国はその解消に向けた緊急対策を発表したところです。

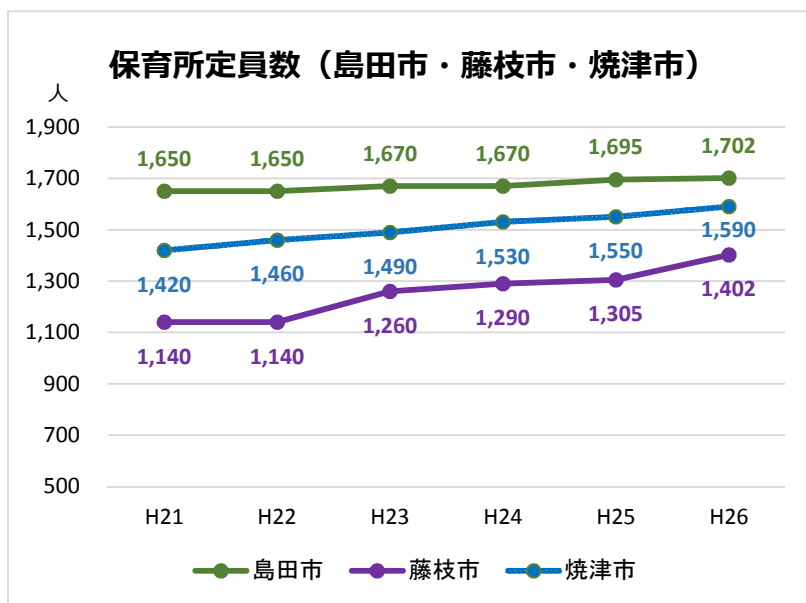
一方で、待機児童数減を目的とした保育所整備計画に、地域住民の理解が得られない事例が発生するなど、将来を担う子どもたちのために地域、自治体が一体となった取組が必要であることを認識させられました。

島田市においては、他市との人口規模と比較すると保育所の定員数は充足し、待機児童数は年々減少傾向を示していました。

平成27年4月から、子ども子育て支援新制度がはじまり、入園要件が緩和されたことで、待機児童が増える要因となっています。

平成28年度からは育休退園を廃止し、潜在的な待機児童数対策にも取り組むなど、子育て分野において引き続き力を入れていきます。

【参考】



※左側の目盛り…保育所定員数（折れ線グラフ）

※出典 市町の指標（県発表）

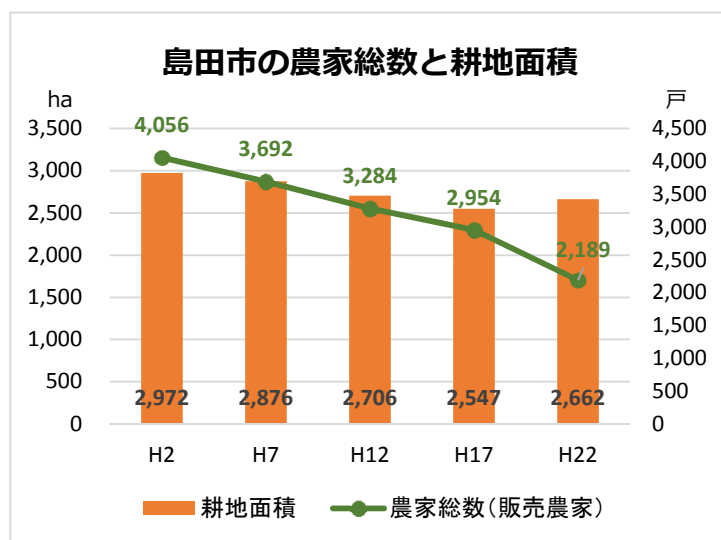
（2）島田市の地力を高める上での課題

① 島田市の農業は…

島田市は、農家世帯比率（全世帯における農家世帯の割合）は、県内5位の位置を示しており農業の比重が高い都市であると認識しています。

その一方で、平成2年と平成22年度の世界農林業センサスの結果を比較すると、島田市の販売農家数は、平成22年までの20年間で50%近く減少している現状が分析できます。

農業従事者の高齢化という構造的要因に加え農産物の輸入増加などの外的要因により、今後この傾向が進むことが予想される中で、農業を守る取組を進めていく必要となっています。

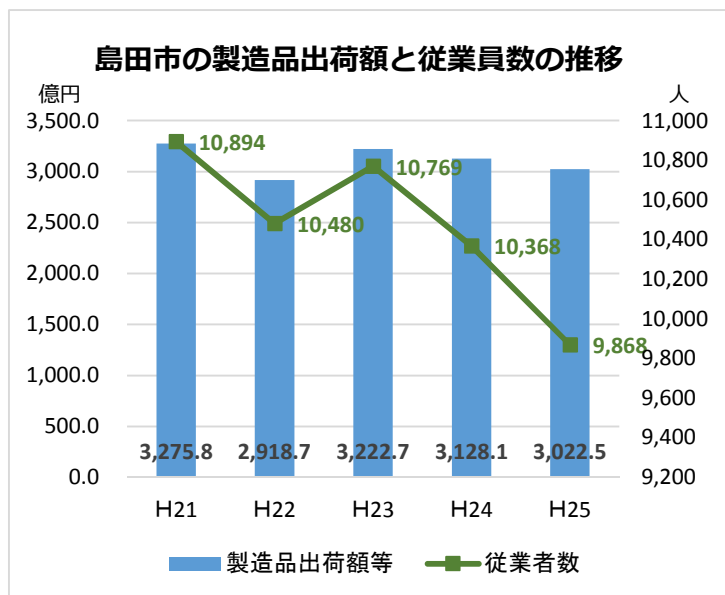


※左側の目盛り…耕地面積（棒グラフ）

右側の目盛り…農家総数（折れ線グラフ）

※出典 市町の指標（県発表）、成果に関する報告書

② 島田市の製造業は…



※左側の目盛り…製造品出荷額（棒グラフ）

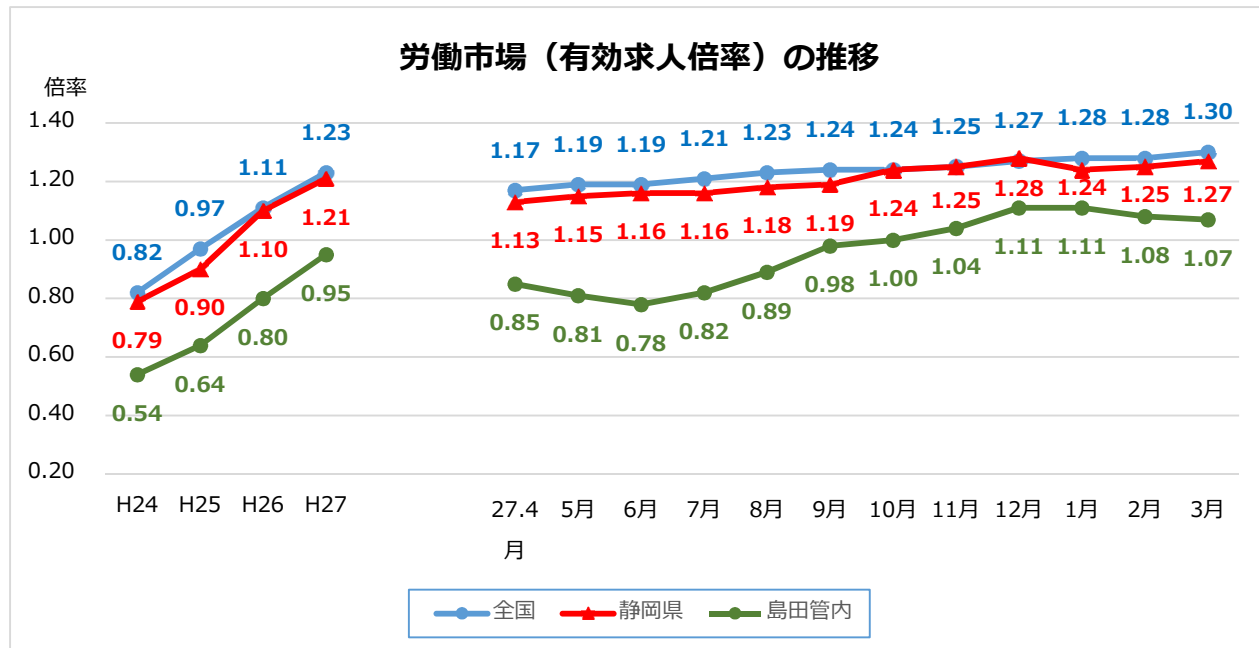
右側の目盛り…従業者数（折れ線グラフ）

※出典 工業統計調査報告書（従業員4人以上の事業所）

製造品出荷額等の状況から島田市の工業の状況を分析すると、平成21年度と平成25年度を比較して、特に、食料品製造業については出荷額で16%程度、従業員数は11%の伸びが見られますが、主要業であったパルプ、業務用機械器具製造業が出荷額、従業員数とも減少している影響から、総額ベースにおいて減少しています。

これは、企業側による工場の撤退や本社、支社機能の統合等の影響による経営上の理由が含まれていると考えられますが、特に、従業員数の減少は、人口減少に直結し、島田市の活気に影響することから、社会交通基盤等の優位性をPRするとともに、さらなる工業用地の開発、積極的な企業誘致を展開する必要があります。

【参考】



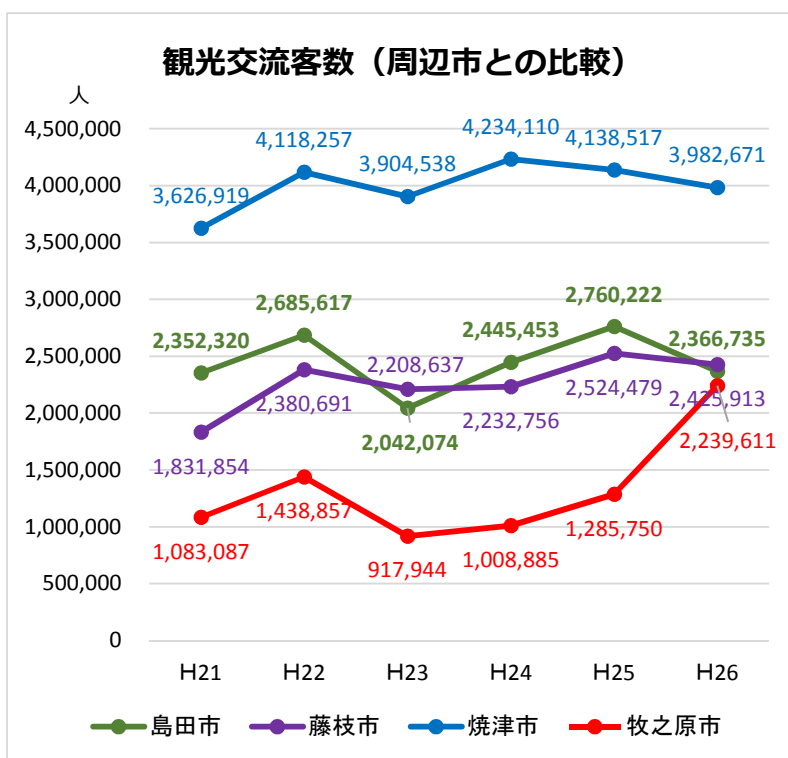
※出典 ハローワーク島田月次報告

③ 観光客交流客数の状況

島田市には毎年250万人前後の観光客が訪れています。特に、3年に一度の島田大祭開催時には、270万人程度の観光交流客数を数えます。(H22、H25)

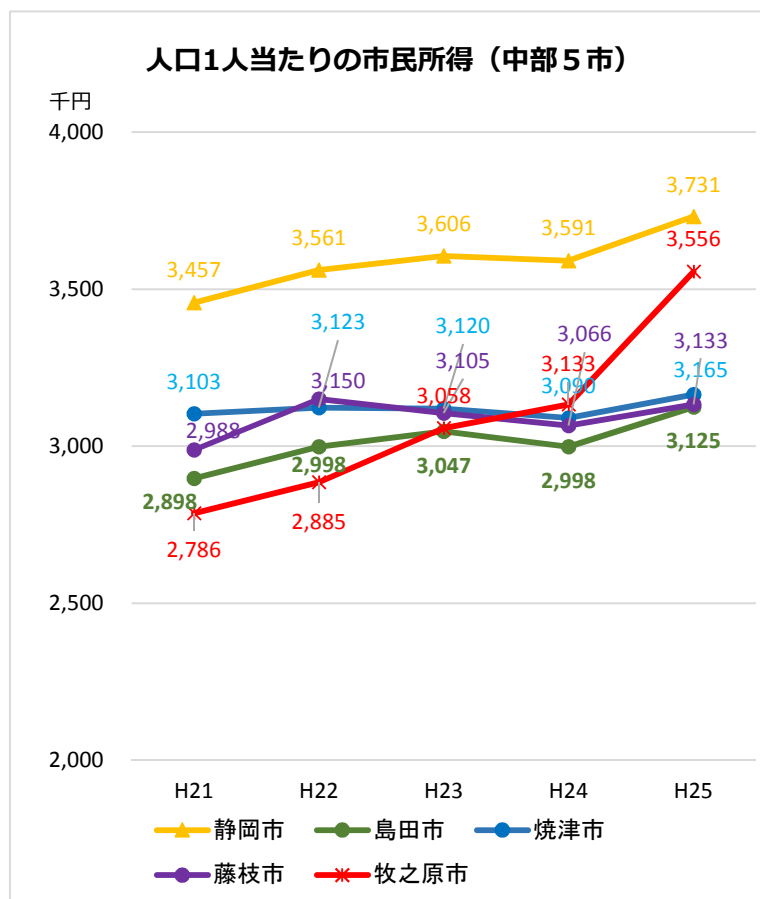
市内には主要観光施設として、蓬莱橋、お茶の郷、川根温泉のほか、S Lが走る大井川鐵道など人を惹きつける観光資源が各地にちりばめられています。しかし、観光交流客数を見ると、藤枝市、牧之原市と拮抗しており、さらに魅力を活かした取組が必要となります。

今後、新東名島田金谷IC周辺のにぎわい拠点施設の整備などハード事業を展開していきますが、それを補完するソフト事業の展開も求められています。



※出典 静岡県観光交流の動向

④ 経済活動の状況は…



各市の産業構造（第1次、第2次、第3次産業の割合）が異なるので、一概には比較できませんが、静岡県のGDP（域内総生産額）をもとに計算した島田市の人口1人当たりの市民所得額は中部5市で最下位となっています。

農業、工業、商業、サービス業を活性化する個別施策を展開し、バランスが良い産業構造にしていくとともに、男女、年齢を問わずだれもが生きがいを持って働く場、そして、官民が連携し、だれもが働くことにチャレンジできる環境をつくることが求められています。

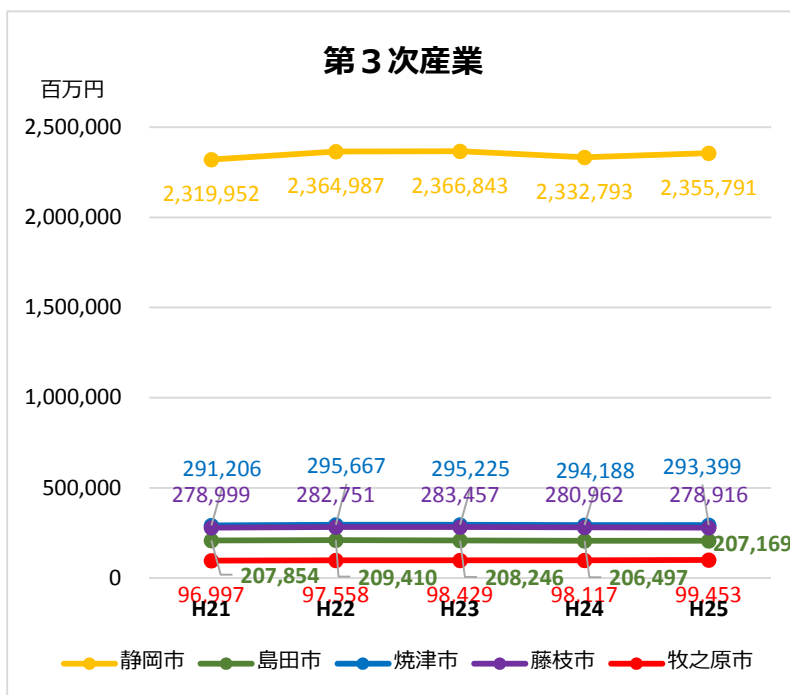
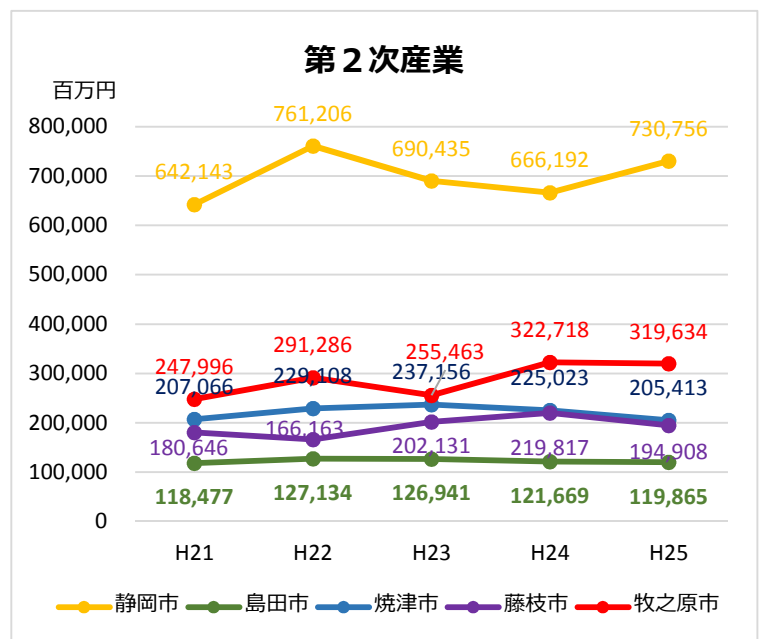
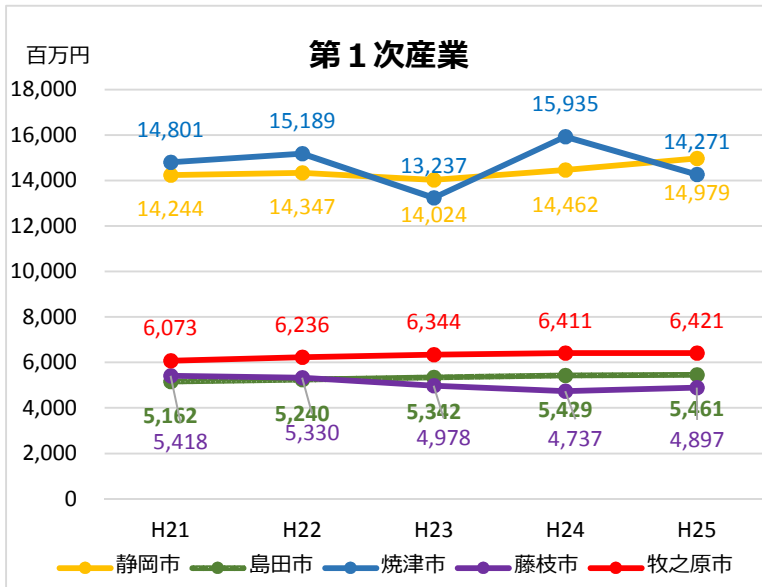
【人口1人当たりの市民所得】

「静岡県の県民経済計算」で推計した県全体のGDP（域内総生産）を家計・企業・個人事業・政府（地方自治体など）の3つの経済部門で分配、かつ、35市町に振り分け、各市町の人口で割った額である。

賃金水準や個人の所得水準を示すものではなく、地域の経済水準を捉える一つの指標としている。

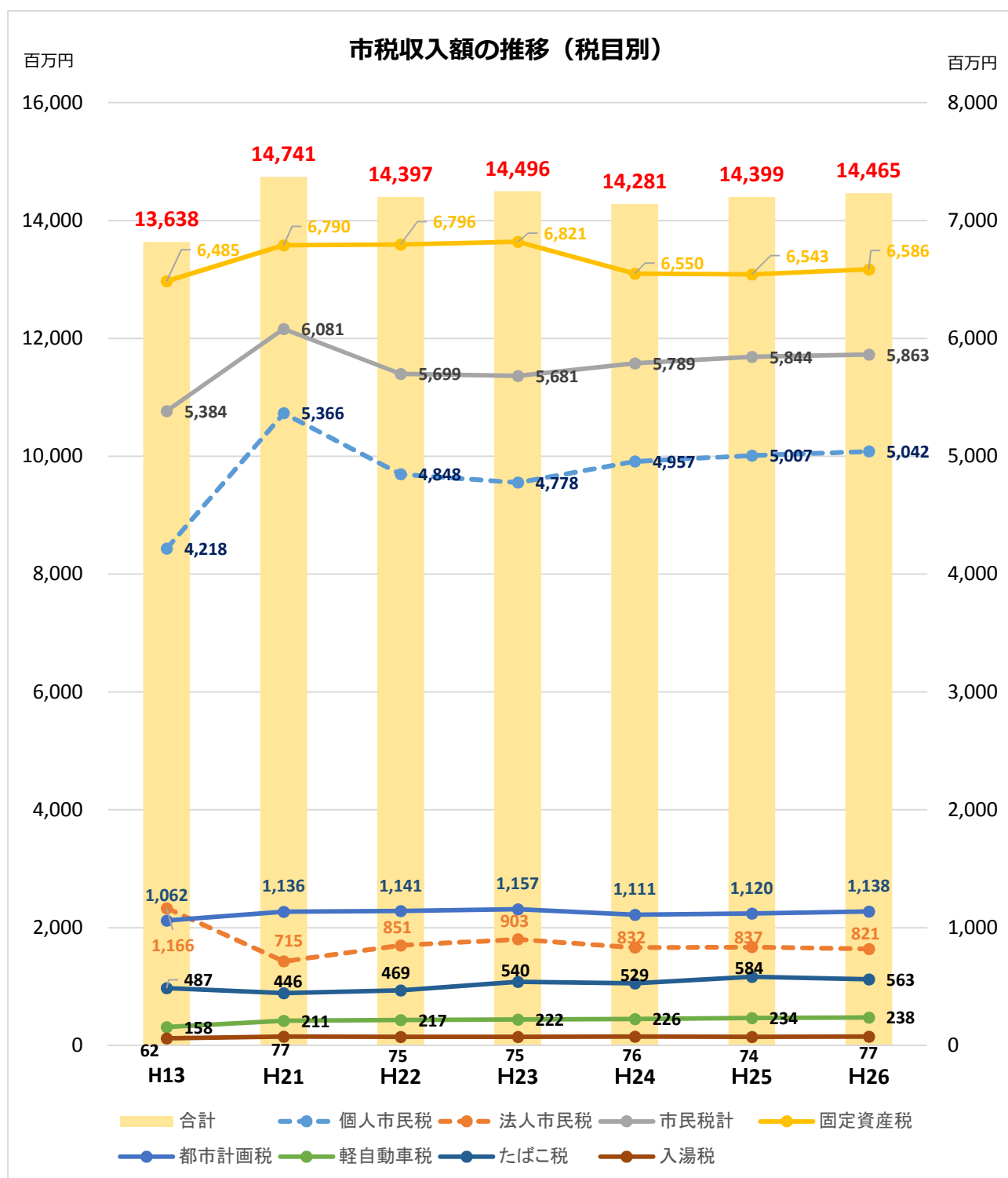
※出典 しずおかけんの地域経済計算（静岡県作成）

【参考】第1次産業～第3次産業 生産高 中部5市との比較

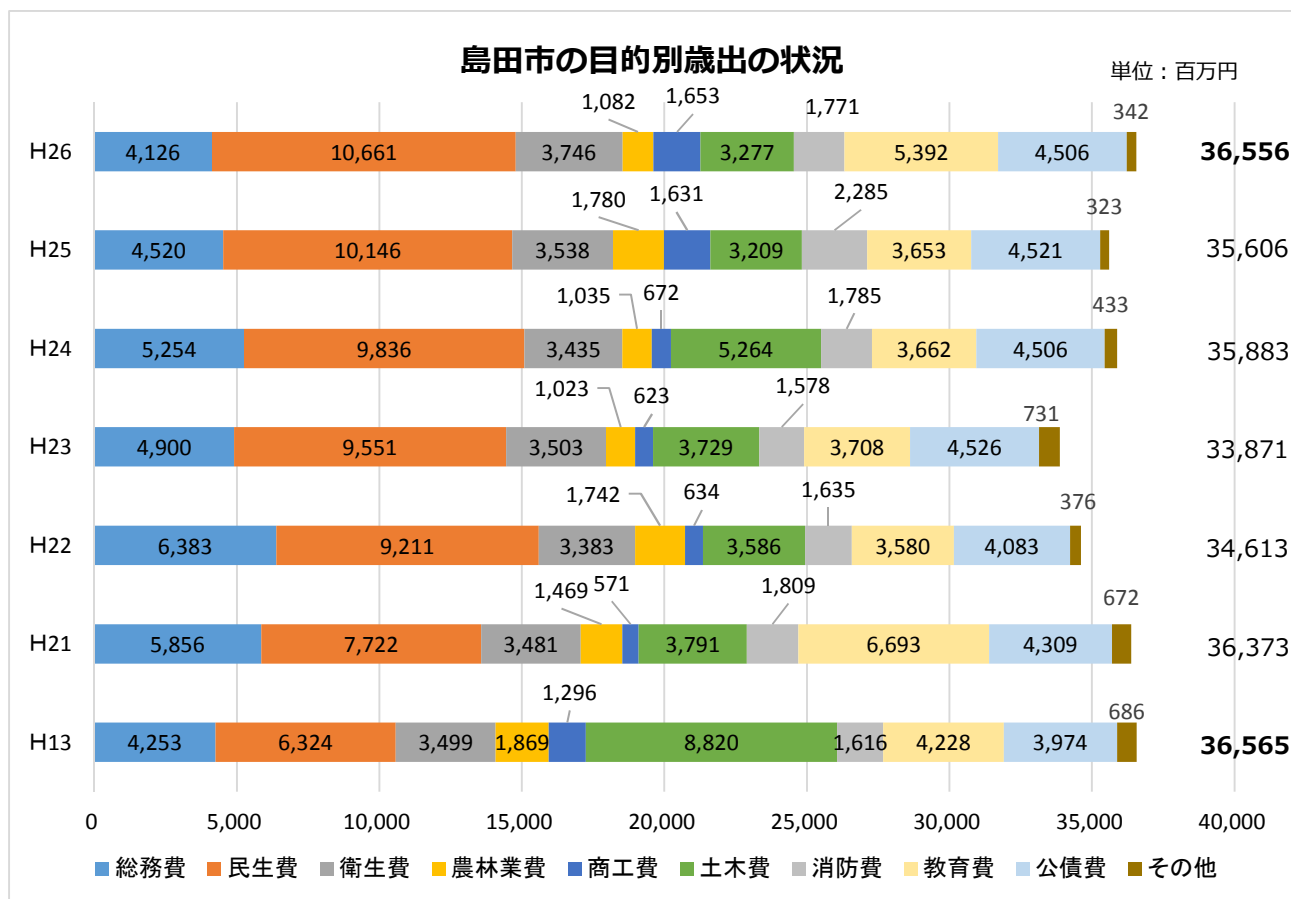


※出典 しずおかけんの地域経済計算
(静岡県作成)

① 市税収入額の推移と財政状況



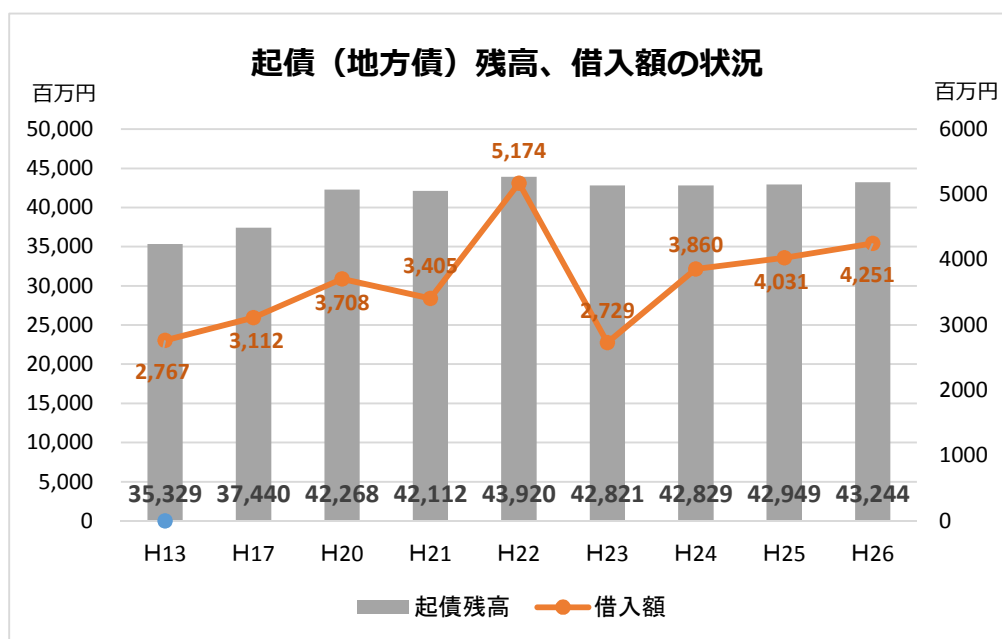
② 島田市の目的別歳出の状況



※出典 市町村決算カード（総務省） H13分については、旧島田、旧金谷、旧川根の合算値

※国の三位一体改革前の平成13年度歳出総額と平成26年度の歳出総額はほぼ同額

③ 島田市の起債（地方債）残高、借入額、



※出典 市町村決算カード（総務省）

※左側の目盛り 地方債現在高（棒グラフ） 右側の目盛り 借入額及び償還額（折れ線グラフ）

H13分については、旧島田、旧金谷、旧川根の合算値 H17については、島田と旧川根の合算値

④ 島田市・藤枝市・焼津市の財政状況（財政指標抜粋）

●島田市

	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
財政力指数	0.81	0.79	0.77	0.75	0.75	0.76
経常収支比率（％）	89.5	85.6	87.9	89.8	90.5	91.6
実質公債費比率（％）	13.5	11.8	10.6	10.0	9.6	8.8
将来負担比率（％）	100.2	87.0	68.6	51.5	35.5	25.0

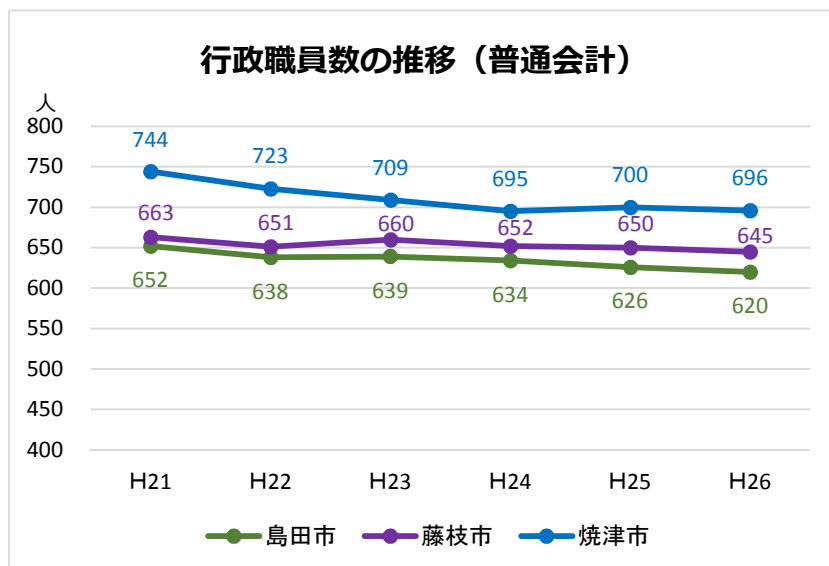
●藤枝市

	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
財政力指数	0.87	0.87	0.86	0.84	0.85	0.85
経常収支比率（％）	86.5	81.9	84.3	84.6	83.0	84.9
実質公債費比率（％）	14.4	13.2	13.0	12.8	12.3	11.8
将来負担比率（％）	95.1	83.8	73.2	70.3	53.6	45.9

●焼津市

	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
財政力指数	0.96	0.94	0.92	0.90	0.89	0.89
経常収支比率（％）	82.0	78.8	80.1	81.7	82.9	83.9
実質公債費比率（％）	12.8	11.8	10.9	9.8	9.3	8.4
将来負担比率（％）	89.0	75.8	73.6	65.5	47.0	40.2

⑤ 島田市の職員数の推移



※出典 市町村決算カード（総務省）